

燕市の技術でアイデアを製品に

スコットランド出身で、現在、燕市を拠点に活動中のライリー・キャスリーンさん。10月、市内企業と一緒に制作した作品『Oku』で「DESIGNART TOKYO 2021」の若手支援プログラム「UNDER30」に選出されました。

「3年前、ロンドンで開催された『燕三条工場の祭典』をテーマにした企画展を訪れ、高度な技術に感動しました」
 当時、ロンドンの美術大学でジュエリーやオブジェなどを制作していたキャスリーンさん。ちょうど、カトラリーのデザインにも興味を持ち始めたころの運命的な出会いでした。そして昨年10月、自分の理想の作品を創作するため、燕市に移住を果たします。
 「職人さんの仕事はいつも完璧。技術が素晴らしいです。そのような職人さんと話し合い、アイデアを発展させながら作品を作り上げていくことは、私にとってすごく刺激的な体験でした」
 燕に来なければ、『Oku』を作り上げることができなかったと振り返ります。



ライリー・キャスリーンさん (杣木)

●アーティスト・金属工芸家

▶「Oku」

日本の伝統的な配膳の形式を基にデザイン。燕市の技術を用いて、ナイフの柄を延ばし、折りたたんで、握りやすく使いやすいシンプルなデザインに落とし込まれている。折りたたんだ形状を活かして、お皿に引っ掛けるなど、さまざまな置き方ができる。来年6月までに販売開始予定。



そして、DESIGNARTの展示会場では、訪れた人々から賞賛を受けました。
 「作品を生み出すのは大変な作業でしたが、お客さんが作品を観て感動してくれたり、喜んでくれて本当にうれしかったです。『Oku』を買いたいと言ってくれる人もいたので、製品化して期待に応えたいです」
 今後も、意欲的に活動をしていきたいと語るキャスリーンさん。
 「これからの創作活動でも、燕市の技術を活かして作品をつくっていきます。作品を制作・販売して、燕市の技術を世界に広めていけたら。イギリスの作家仲間や私が講師を務めている大学の学生と、燕市の職人をつなぐ役割ができればとも考えています」

※ DESIGNART TOKYO 2021…東京都内各所で多彩な展示が開催される、デザイン&アートのフェスティバル。キャスリーンさんの作品は、都内のカフェで展示された。

紙上ブログ

燕市長 鈴木力



東京2020オリンピックピック・パラリンピックの選手村食堂で使用され、アスリートの活躍に貢献した燕市の金属洋食器が戻ってきました。
 今後は燕市内等で活用し、オリンピッククレガシー（五輪遺産）として未来へ引き継いでいきます。
 その第1弾として、市内の福祉施設や小中学校の給食等での活用を開始します。
 また、平成27年に災害時の相互応援協定を結び、産業や観光でも交流の深い山形県南陽市でも学校給食や調理実習等で活用してもらうこととなりました。
 引き続き燕市の洋食器が果たした功績を後世に伝える方法を検討していきます。

◀こちらは有料広告です。

おかげさまで県央エリアご利用10,000世帯

超高速光インターネット

NCT 光

好評受付中!

インターネット 300Mbps + ケーブルテレビ + 固定電話

光おとく割 キャンペーン 月額 **6,600円** (税込)

※NHK受信料は含まれていません。表記の価格は税率10%に基づく税込金額です。※各種キャンペーンの適用には条件がございます。

インターネット・ケーブルテレビ・電話

エヌ・シー・シティ 0120-080-009 電話受付時間 9:30~17:30 (ドコモ光タイプCに関しては10:00~19:00) ※上記時間以外・土日祝・年末年始は時間外受付に転送されます。

※この広報紙は、環境にやさしいペジタブル・オイル・インクを使用しています。